

令和元年度 事務事業総点検シート(1)
[平成30年度事務事業]

一般会計		事務事業分類			詳細点検
事務事業名	斎場管理運営	シート番号			A 一般事務事業
担当部署名	健康福祉 局	健康 部	斎場 課	評価責任者(課長名)	安藤

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	1	市民の命を守る健康・医療体制の強化	無
	2	事業開始年度	明治 42 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	墓地、埋葬等に関する法律 堺市立斎場条例 堺市立斎場条例施行規則			
	4	関連計画				
5	事業実施の経緯	明治43年5月31日に墓地及埋葬取締規則による火葬場を開設、平成11年4月1日に現斎場を建設し、現在に至っている。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input checked="" type="checkbox"/> 出先機関 (斎場) <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()		
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	斎場利用者		
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	市内唯一の公営火葬場として、常にご遺族の心情に寄り添いつつ故人の尊厳を第一に、まごころのこもった火葬業務を実施する。 また、年々増加する火葬需要に対応し、災害時等においても適切に効果的な斎場運営を実施する。		
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	<input type="checkbox"/> 火葬場・式場等使用の受付及び火葬運営業務 ・火葬部門 火葬炉17基、補助炉1基 ・式場部門 葬儀式場3室、遺族控室3室 ・待合部門 待合室12室(洋室2室、和室10室) ・駐車場 マイクロバス10台、乗用車42台 <input type="checkbox"/> 各種証明等の発行業務 ・改葬許可 ・分骨証明及び火葬証明		
10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 () 太陽築炉工業(株)外			

Ⅲ. 投入量

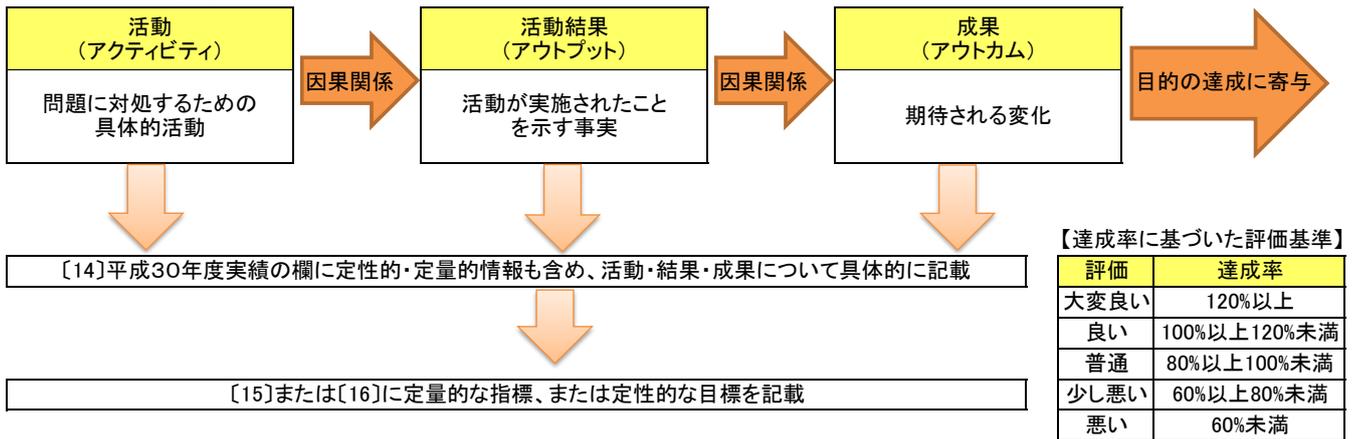
項目	単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
事業費 (a)	千円	349,480	337,649	354,662	349,190	
11 主な事業費内訳	委託料(火葬運営、保守点検等)	千円	159,054	154,513	155,661	154,478
	需用費(光熱水費、修繕料等)	千円	168,210	164,406	176,509	171,458
	工事請負費	千円	1,000	0	2,268	0
	国・府支出金	千円				
	財源内訳					
受益者負担金(使用料、手数料等)	千円	215,920	222,377	223,320	214,340	
市債	千円					
その他(光熱水費等徴収金)	千円	880	667	634	667	
一般財源	千円	132,680	114,605	130,708	134,183	
12 人件費 (b)	千円	38,580	38,780	38,780	38,390	
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	388,060	376,429	393,442	387,580	

令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	斎場管理運営	シート番号	11-203
-------	--------	-------	--------

Ⅳ. 評価(測定・分析)

ロジックモデルの考え方



事業の活動内容や成果

平成30年度実績								
活動実績と成果	14	<p>・斎場は、故人との最後の告別の場であることから、火葬において、ご遺族の心情に配慮するとともに、ご遺体の尊厳を第一として業務を遂行した。</p> <p>・また、こまめに施設の清掃や小修理などを実施し、良好な状態で適切に施設提供を行った。</p> <p>・特に火葬炉については定期補修を実施し、火葬中の場合も含め不測の事態で火葬業務が停止することなく、また点検日を除き火葬炉をいつでも運転できる状態とした。</p> <p>・施設の利用実績では、年間 約8,000件の火葬を実施。式場についても約1,000件の利用があった。</p> <p>・市民からの改葬に関する相談や問合せ等に応えつつ年間約700件の改葬許可、また合計で年間1,000件を超える火葬証明、分骨証明を交付。</p>						
		15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		年間火葬件数 (改葬遺骨を除く)	目標値	-	-	-	-	
			実績値	7,860	8,097	8,159	-	
			達成率	-	-	-	-	
	評価		-	-	-	-		
	算出方法・設定根拠など		実火葬数による積算					
	16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	年間式場使用件数	目標値	-	-	-	-		
		実績値	962	977	1,029	-		
		達成率	-	-	-	-		
		評価	-	-	-	-		
	算出方法・設定根拠など		斎場使用許可申請数による積算					

業績の分析

	目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
17	<p>当斎場は唯一の公営火葬場として常に良好に運営することが求められている。日常点検を重視しながら、必要な補修を行ってきた。特に火葬に直結する火葬炉については定期的な保守、補修を行い、点検時を除き火葬炉の使用が長期間、出来ない状態にならないようにしている。このことにより火葬運営・式場使用等、安定的に施設運営ができた。本市唯一の公営火葬場として有効性は非常に高い。</p>

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。